

おたまじゃくしの成長

益城町立飯野小学校

3年 杉野 リコ

1 研ぎゅうのきっかけ

わたしは、夏休みにひいばあちゃん家の池で、12匹のおたまじゃくしと出会った。太陽の光をあびてかがやいていた彼らはとてもきれいで、その中の一匹に「おたま」と名前をつけ、カエルまでの成長を見守ることにした。

2 研ぎゅうの方法

① まずは、「カエル」とはどんな生き物なのかを本などで調べまとめることにした。

② バケツの中に水草などを入れ、「おたまじゃくし」の成長を記ろうとした。(かみづつ時は、ビンに入れた)

3 研ぎゅうのけっか

① カエルは「両生類」の仲間。水中でくらすおたまじゃくしは魚のように、エラで酸素をすてこきゅうをし、大きくなるとカエルとなり、人間のよう肺で酸素をすてこきゅうをする。

② 「おたまじゃくしは何を食べるのか？」⇒ 口に入れれば何でも食べるらしく、私はニホシ、白さい、ホウレン草を与えた⇒ 与えた食べ物すべて食べていた。

おたまの成長記ろう



× ふ化したばかりの「おたまじゃくし」の全長は約8mmしかありません。
 ところが1ヶ月くらいで40mm以上になりました。

く後足が徐々に大きくなってくる

おたまじゃくしがカエルになっていく上で生活するためには、尾ヒレから足へ、エラこきゅうから肺こきゅうへ、草食から肉食へと体のつくりを大きくかえるひつようがある。これを「へんたい」とよぶ。こホシアマガエルの場合は、さんらんから1、2ヵ月でカエルにへんたいしはじめる。後ろ足。ふ化した時には、後ろ足は生えておらず、成長するにつれて尾のつけ根にふくらみができ、じょじょに後ろ足の形ができてくる。

く前足はいきなり飛び出す

後ろ足が曲げられるようになるのと、左の前足がエラあな(こきゅうこう)からいきなり飛び出すようになってくる。前足はとっ然大きくなるのではなく、皮ふの下でじょじょに育っている。

くおたまじゃくしの色もかわる

田んぼでは、どのおたまじゃくしも黒。ぽい色をしている。おそろく天てきから逃げため工夫らしい。しかし、成長するとだんだんカエルの色やもようが出てくる。私が育てた「おたまじゃくし」は、黒っぽい色からだんだんと、うすい茶色に変色し、小さな黒いはん点があらわれていた。



〈おたまじゃくしの種類〉

くまとめ

おたまじゃくしを観察することで、その成長の過程をしることができた。けっか、私の育てた「おたま」は、自力でバケツから逃げだし、いつの間にかいなくなっていた。水中から外に逃げだすということとは、完全にエラこきゅうから肺こきゅうへと変化し、カエルへと成長をとげたあかしだと思った。次回は、カエルまでの成長を観察し、カエルの種類やその生きたい系を調べたいと思います。

おたまじゃくしの種類は、こんなにたくさんあり、私の育てたおたまじゃくしがどの種類になるのかは、にている点もたくさんあり、観察することができなかった。